



News Letter

2026年

2月

中国四国農政局
広島県拠点

第12回「農を取りまく情報交流の広場」を開催！ テーマ：値段のないスーパー・マーケット ～みんなにとって「フェアな値段」を考えよう～

中国四国農政局広島県拠点は、令和8年1月24日（土曜日）、合人社ウェンディひと・まちプラザにおいて、「みんなにとって「フェアな値段」を考えよう」をテーマに第12回「農を取りまく情報交流の広場」を開催し、県内外から70名の参加がありました。

安田女子大学の学生による司会のもと、中国四国農政局広島県拠点 関地方参事官が開会のあいさつを述べ、同局経営・事業支援部 石尾食品企業課長から「食料システム法」の概要を説明しました。

第1部は、生産者、小売・流通業者、消費者の立場のパネリストを迎えて「フェアな値段」についてのディスカッション、第2部では、会場参加者を交えたグループ討議を行いました。

生産者からは、生産現場は物価高・生産資材の高騰、異常気象による農作業の負担増など、経営は厳しい状況である。

安心・安全・良品質の農産物を提供するために労力をかけていることを理解してほしい。

小売・流通段階では、生産者自らが価格を設定することが難しい場合もあるが、適正価格を算出する力も必要。

農業者の思いが届くツールを考え、生産者、消費者とも納得できる価格設定ができる仕組みを検討していくべき。

消費者としては、安価のものを選択しがちであるが、生産過程・背景を知ることを意識し、生産者、消費者とも無理をしない、「誰も犠牲にならない価格」にしていくことが望ましい。等の意見が出されました。

また、会場参加者には、農産物の値段を考えてもらう試みとして「米」「卵」「キャベツ」を購入する際、「どのくらいの値段であれば買いますか？」という質問にパネルディスカッションの前後で回答してもらい、集計結果を会場で発表しました。

生産者の現状や小売・流通業者の取り組みを知った後では、各農産物とも購入希望価格が高めにシフトした結果となりました。



熱心に説明を聞く会場参加者



あいさつする
関地方参事官

「食料システム法」を 進行を担当する大学生
説明する石尾課長

ファシリテーターとパネリストの皆さん

【ファシリテーター】

ながみねファーム 長嶺 充 さん

【パネリスト】

○生産者 株式会社 藤本農園

○小売・流通業者

株式会社 良品計画

吉井笑店

○消費者 野菜ソムリエプロ

○学生 安田女子大学 公共経営学科 藤井 日菜乃 さん

みんなにとって
フェアな値段とは?

藤本 佐知子 さん

平原 美穂子 さん

吉井 知世 さん

大西 真由美 さん

藤井 日菜乃 さん



長嶺さん

藤本さん

平原さん



吉井さん

大西さん

藤井さん



パネルディスカッションの様子



グループ討議



各グループによる発表

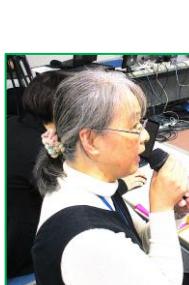
第3部は、会場参加の皆さん、パネリスト、関係団体が自由に意見を交わせる交流の場を設けました。会場では、広島県の農業を持続させる取組や活動の提案など活発な交流が行われました。



日本政策金融公庫広島支店
水本事業統括からの情報提供



会場のパネル展示



アンケート結果を発表する広島県拠点職員



自由交流の様子

参加者からは「フェアプライスの必要性を感じた」「誰かの犠牲で価格が決められるのはいけない」等の感想があり、農業者、小売・流通業者、消費者がそれぞれの思いを共有し、相互の距離を埋める一端となり、フェアプライス（適正価格）を身近に考えてもらえる機会になりました。

編集:中国四国農政局 広島県拠点

〒730-0012 広島市中区上八丁堀6-30

TEL (082)228-9676(内線306)

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。<https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>